

## **Oracle® Developer Suite**

クイック・スタート・インストレーション・ガイド

10g リリース 2 (10.1.2) for Solaris Operating System (SPARC), Microsoft Windows and Linux x86

**部品番号 : B25105-01**

2005 年 10 月

**ORACLE®**

原本名 : Oracle Developer Suite Quick Start Installation Guide, 10g Release 2 (10.1.2) for Solaris, Windows and Linux

原本部品番号 : B16013-01

Copyright © 2005, Oracle. All rights reserved.

#### 制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記載された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

#### U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation, and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

Oracle, JD Edwards, PeopleSoft, Retek は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性があります。

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかるとして使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万が一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

# はじめに

このマニュアルで説明されている各種サービスは日本オラクル社から提供されるサービスです。サービスは、製品をご購入された日本オラクル正規代理店各社から提供される場合もありますが、サービス内容はこのマニュアルの説明と異なることがあります。

このマニュアルでは、Oracle Developer Suite 10g リリース 2 (10.1.2.0.2) のインストール方法について説明します。

## このマニュアルの内容

- [ご注文内容の確認](#)
- [Oracle Developer Suite のインストールの概要](#)
- [インストール・プロセスについて](#)
- [Oracle Developer Suite コンポーネントのインストールについて](#)
- [ハードウェア要件](#)
- [サポートされるオペレーティング・システム](#)
- [オペレーティング・システムのソフトウェア要件](#)
- [動作保証されたソフトウェア](#)
- [オンライン・マニュアルの要件](#)
- [インストーラの起動](#)

- コンポーネントの起動
- 追加情報
- その他の情報
- ドキュメントのアクセシビリティについて

# 1 ご注文内容の確認

メディア・パック受領後、ただちに同梱の Packing List をもとにパッケージ内容物を確認してください。破損、欠品、不明な点などのお問合せは、本製品をご購入された日本オラクル正規代理店、もしくは Oracle Direct までお寄せください。

メディア・パックには、このマニュアルの他に次の製品が同梱されていません。

- 製品メディア

製品メディアには、製品をインストールするためのソフトウェアおよび README ファイルが含まれています。

- Start Here CD (赤いレーベル)

Start Here CD には、インストール・マニュアル、リリース・ノート、お役に立つインターネット・リンクおよびメディア・パックに関する情報が含まれています。

- Oracle Developer Suite JP Documentation Library

Oracle Developer Suite JP Documentation Library には、オラクル製品のオンライン・ドキュメントが含まれています。

---

---

**注意：** メディア・パックによって、Start Here CD や Oracle Developer Suite JP Documentation Library が同梱されていない製品があります。Packing List を参照して確認してください。

---

---

## 2 Oracle Developer Suite のインストールの概要

Oracle Developer Suite 製品のインストールには、次のようなオプションが用意されています。

- **J2EE Development:** Java、HTML、XML および SQL を使用して、Java と Java 2 Platform, Enterprise Edition (J2EE) アプリケーションを開発するための軽量インストールを提供します。このオプションには、Oracle Application Server Containers for J2EE (OC4J) を使用したテスト機能が含まれており、また Oracle Business Intelligence Beans (OracleBI Beans と呼ばれる) を使用してアプリケーションを拡張し、ビジネス・インテリジェンス機能を追加できます。
- **完全:** このオプションを選択して、Oracle Forms Developer、Oracle Designer、Oracle Reports Developer および Oracle10g JDeveloper をインストールします。このオプションを選択した場合は、Oracle Application Server Containers for J2EE (OC4J) および関連する Oracle Application Server のランタイム・サービス (Oracle Application Server Forms Services および Oracle Application Server Reports Services) もインストールされ、OC4J はテスト用のデフォルトのリスナーとして設定されます。

Solaris と Linux では、Oracle10g JDeveloper、Oracle Forms Developer および Oracle Reports Developer のみが提供されます。このオプションを選択した場合は、Oracle Application Server Containers for J2EE (OC4J) および関連する Oracle Application Server のランタイム・サービス (Oracle Application Server Forms Services および Oracle Application Server Reports Services) もインストールされ、OC4J はテスト用のデフォルトのリスナーとして設定されます。

Oracle Developer Suite のハードウェアとソフトウェアの要件は、「[ハードウェア要件](#)」および「[オペレーティング・システムのソフトウェア要件](#)」に記載されています。

ステップごとのインストール手順は、「[インストーラの起動](#)」に説明されています。

個々の Oracle Developer Suite コンポーネントについては、Oracle Developer Suite のインストレーション・ガイドの付録 B で説明されています。

表 1 には、Oracle Developer Suite の Windows 用のインストール・オプションと、各オプションでインストールされるコンポーネントが一覧表示されています。表 2 には、Oracle Developer Suite の Linux および Solaris 用のインストール・オプションと、各オプションでインストールされるコンポーネントが一覧表示されています。

**表 1 Oracle Developer Suite のインストール・オプションとコンポーネント (Windows)**

コンポーネント	J2EE Development	完全
Oracle 10g JDeveloper (Oracle Business Intelligence Beans、UIX および Bali サブコンポーネントを含む)	○	○
Oracle Reports Developer	×	○
Oracle Forms Developer	×	○
Oracle Designer	×	○



**表2 Oracle Developer Suite のインストール・オプションとコンポーネント (Linux および Solaris)**

コンポーネント <sup>1</sup>	J2EE Development	完全
Oracle10g JDeveloper (Oracle Business Intelligence Beans、UIX および Bali サブコンポーネントを含む)	○	○
Oracle Reports	×	○
Oracle Forms	×	○

<sup>1</sup>. Oracle Developer Suite の完全な機能を提供するために、Linux および Solaris 版には完全な Windows 版のコンポーネントも含まれています。

### 3 インストール・プロセスについて

Oracle Developer Suite のインストール・プロセスには、次のフェーズがあります。

- **インストールの準備**：Oracle Developer Suite をインストールする前に、インストールの準備を行ってから、Oracle Universal Installer を起動してインストールを開始します。詳細は、Oracle Developer Suite のインストール・ガイドのインストールの準備とインストーラの起動準備に関する項を参照してください。
- **インストール**：インストーラのインストール手順に従って、Oracle Developer Suite をインストールします。詳細は、Oracle Developer Suite のインストール・ガイドのインストーラの起動準備に関する項と第3章「インストール」を参照してください。
- **インストール完了後**：Oracle Developer Suite が正常にインストールされた後は、インストール完了後の作業と設定作業を行います。詳細は、Oracle Developer Suite のインストール・ガイドのインストール完了後の作業に関する項を参照してください。

---

---

**注意：** 以前のバージョンから移行またはアップグレードする場合は、インストールを開始する前に、Oracle Developer Suite のインストール・ガイドの付録 A 「アップグレードに関する注意」を参照してください。

---

---

## 4 Oracle Developer Suite コンポーネントのインストールについて

Oracle Universal Installer では、デフォルトの設定値を使用して Oracle Developer Suite コンポーネントをインストールし、ローカルまたはリモートのサーバー製品へのアクセスに必要な基本的なネットワーク要素を設定します。

Oracle Developer Suite では、アプリケーションの実行またはテストに Oracle Application Server (OracleAS) の個別インストールは必要ありません。選択したインストール・オプションに応じて、Oracle Developer Suite では、アプリケーションのテスト用に関連する OracleAS ランタイム・サービス (OC4J、Oracle Application Server Forms Services および Oracle Application Server Reports Services) が提供されます。ただし、実際のデブロー環境でもアプリケーションをテストすることをお勧めします。

一部の Oracle Developer Suite コンポーネントには、特定の OracleAS コンポーネントを必要とする機能が含まれています。個々のコンポーネント要件の詳細は、Oracle Developer Suite のインストール・ガイドの付録 B に記載されている該当するコンポーネントの項を参照してください。

インストール中は、Oracle ホーム名とパスの入力が求められます。1 つの Oracle ホーム・ディレクトリでの Oracle 製品の共存および 1 台のコンピュータに複数の Oracle 製品をインストールする際のガイドラインについては、Oracle Developer Suite のインストール・ガイドの第 2 章を参照してください。

## 4.1 その他のリリースとの互換性

Oracle Developer Suite 10g (10.1.2.0.2) は、次のコンポーネントが 10.1.2.0.2 バージョンである場合にのみ、同じ ORACLE\_HOME にインストールできます。

- Oracle Application Server
- Oracle Developer Suite
- Oracle Business Intelligence
- Oracle Business Intelligence Tools
- Oracle Application Server Forms and Reports Services

## 5 ハードウェア要件

表 3 に、Oracle Developer Suite の基本的なハードウェア要件を示します。

**表 3 Oracle Developer Suite ハードウェア要件**

ハードウェア構成要素	要件
CPU	次のいずれかの仕様 <ul style="list-style-type: none"><li>■ Pentium または互換プロセッサ (500 MHz を推奨)</li><li>■ SPARC プロセッサ (200 MHz を推奨)</li></ul>
メモリー	128 MB <sup>1</sup>
ディスク領域 <sup>2</sup>	J2EE Development <ul style="list-style-type: none"><li>■ Windows: 508 MB</li><li>■ Solaris: 528 MB</li><li>■ Linux: 700 MB</li></ul> 完全 <ul style="list-style-type: none"><li>■ Windows: 943 MB</li><li>■ Solaris: 865 MB</li><li>■ Linux: 920 MB</li></ul>

### 表 3 Oracle Developer Suite ハードウェア要件 (続き)

ハードウェア構成要素	要件
ページファイル・サイズ、TMP またはスワップ領域の合計 <sup>3</sup>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ Windows: 384 MB</li><li>■ Linux および Solaris: 500 MB</li></ul>
ビデオ	256 色以上

1. インストールに必要な最小容量。ただし、Oracle Developer Suite のコンポーネントによっては、これ以上のメモリーが必要な場合もあります。コンポーネントごとに必要なメモリー容量については、表 4 を参照してください。
2. 英語でインストールする場合にのみ必要なディスク領域。実際に必要なディスク領域は、インストール時に選択した言語によって異なります。通常は C ドライブに、さらに 50 MB の一時ディスク領域が必要になります。
3. マルチユーザーの Linux または Solaris 環境で Oracle JDeveloper 10g を使用する場合は、1 GB のスワップ領域を使用する必要があります。

表 4 に、Oracle Developer Suite の各コンポーネントのメモリー要件を示します。

**表 4 Oracle Developer Suite コンポーネントのメモリー要件**

コンポーネント	メモリー
Oracle10g JDeveloper (Oracle Business Intelligence Beans、UIX および Bali サ ブコンポーネントを含む)	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 最小 : 256 MB</li><li>■ 推奨 : 512 MB</li></ul>
Oracle Reports Developer	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 最小 : 128 MB</li><li>■ 推奨 : 256 MB</li></ul>
Oracle Forms Developer	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 最小 : 128 MB</li><li>■ 推奨 : 256 MB</li></ul>

## 6 サポートされるオペレーティング・システム

Oracle Developer Suite は、Microsoft Windows 2000/XP Professional、Sun Solaris および Linux x86 オペレーティング・システムで使用できます。表 5 に、Oracle Developer Suite コンポーネントとサポートされるオペレーティング・システムを示します。

---

---

**注意：** このドキュメントでは、Linux は Linux x86 オペレーティング・システムを表します。

---

---

**表 5 オペレーティング・システムと Oracle Developer Suite コンポーネント**

コンポーネント	2000/XP Professional	Solaris	Linux
Oracle 10g JDeveloper (Oracle Business Intelligence Beans、UIX および Bali サブコンポーネントを含む)	○	○	○
Oracle Reports Developer	○	○	○
Oracle Forms Developer	○	○	○
Oracle Designer	○	×	×



## Linux および Solaris の注意事項 :

- LinuxおよびSolarisのデスクトップ環境でJDeveloperの動作が確認されているのは次のとおりです。
  - Solaris/CDE
  - Linux/GNOME
  - Linux/KDE2

## 7 オペレーティング・システムのソフトウェア要件

この項では、Windows、Linux および Solaris のオペレーティング・システム要件を示します。

### 7.1 Windows オペレーティング・システム

Oracle Developer Suite の Microsoft Windows オペレーティング・システム要件は次のとおりです。

- Microsoft Windows 2000 Service Pack 3 以上
- Microsoft Windows XP Professional Edition Service Pack 2 以上

---

---

**注意：** 最近のバージョンの Windows では、C 以外のシステム・ドライブを使用できます。このガイドでは、システム・ドライブを「デフォルトのシステム・ドライブ」と呼びます。デフォルトのシステム・ドライブには、C 以外を使用してもかまいません。

このガイドのほとんどの例では、デフォルトのシステム・ドライブに C を使用しています。

---

---

## 7.2 Sun SPARC ワークステーション用の Solaris オペレーティング・システム

Solaris を Sun SPARC ワークステーションで実行する場合は、Solaris 8 (2.8) または Solaris 9 (2.9) が必要です。パッチは、次の場所からダウンロードできます。

<http://sunsolve.sun.com/pub-cgi/show.pl?target=patches/J2SE>

---

---

**注意：** Solaris で Oracle10g JDeveloper を実行する場合は、CDE ウィンドウ・マネージャを使用する必要があります。

---

---

### 7.2.1 Solaris 8 (2.8) パッチセットの要件

Oracle Developer Suite の Solaris 8 (2.8) パッチセット要件は次のとおりです。

- 108652-82: X11 6.4.1: Xsun
- 108921-21: CDE 1.4: dtwm
- 108940-62: Motif 1.2.7 および 2.1.1: ランタイム・ライブラリ・パッチ
- 112003-03: 64 ビット Solaris 8 の iso-1 または iso-15 では、フォントセットのロードは不可
- 108773-18: IIIM および X の入出力メソッド

- 112138-01: usr/bin/domainname パッチ
- 111310-01: /usr/lib/libdhcpagent.so.1
- 109147-28: リンカー
- 111308-04: /usr/lib/libmtmalloc.so.1
- 112438-03: /kernel/drv/random
- 108434-17: C++ 用の共有ライブラリのパッチ (32 ビット)
- 111111-04: /usr/bin/nawk
- 112396-02: /usr/bin/fgrep
- 110386-03: RBAC 機能
- 111023-03: /kernel/fs/mntfs、/kernel/fs/sparcv9/mntfs
- 108987-13: patchadd および patchrm のパッチ
- 108528-29: カーネル更新
- 108989-02: /usr/kernel/sys/acctctl、/usr/kernel/sys/exacctsys
- 108993-36: LDAP2 クライアント、libc、libthread および libnsl ライブラリ

## 7.2.2 Solaris 9 (2.9) パッチセットの要件

Oracle Developer Suite の Solaris 9 (2.9) パッチセットの要件は次のとおりです。

- 113096-03: X11 6.6.1: OWconfig
- 112785-35: X11 6.6.1: Xsun

## 7.2.3 Solaris 8 (2.8) および Solaris 9 (2.9) のパッケージ要件

オペレーティング・システム・パッケージがコンピュータにインストールされていることを確認するには、`pkginfo` コマンドの後にパッケージの名前を入力して実行します。表に記載したすべてのパッケージに対して、この作業を実行します。`pkginfo` の構文は、`pkginfo package_name` です。

たとえば、次のように指定します。

```
prompt>pkginfo SUNWarc
```

コンピュータにインストールされていないパッケージがある場合は、システム管理者に連絡してください。

Oracle Developer Suite の Solaris 8 (2.8) および Solaris 9 (2.9) のパッケージ要件は次のとおりです。

- SUNWarc
- SUNWbtool

- SUNWhea
- SUNWlibm
- SUNWlibms
- SUNWsprot
- SUNWsprox
- SUNWtoo
- SUNWi1of
- SUNWxwfont
- SUNWi1cs
- SUNWi15cs
- SUNWarc
- SUNWbtool
- SUNWhea
- SUNWlibm
- SUNWlibms
- SUNWsprot
- SUNWsprox
- SUNWtoo

- SUNWi1of
- SUNWxwfont
- SUNWi1cs
- SUNWi15cs

### 7.3 Linux オペレーティング・システム

Linux のディストリビューションに応じて次のいずれかの項を参照し、ソフトウェア要件を確認します。

- [Red Hat Enterprise Linux AS/ES2.1 システムのソフトウェア要件](#)
- [Red Hat Enterprise Linux AS/ES 3.0 システムのソフトウェア要件](#)
- [Red Hat Enterprise Linux AS/ES 4.0 システムのソフトウェア要件](#)
- [SUSE Linux Enterprise Server 8 システムのソフトウェア要件](#)
- [SUSE Linux Enterprise Server 9 システムのソフトウェア要件](#)

オラクル社では、Linux ベンダーがサポートしないカスタマイズ版のカーネルやモジュールをサポートしていません。

Oracle Developer Suite10g リリース 2 (10.1.2) は、ネットワーク上にない Linux システムにインストールできます。

### 7.3.1 Red Hat Enterprise Linux AS/ES2.1 システムのソフトウェア要件

次の項では、Oracle Developer Suite を Red Hat Enterprise Linux AS/ES 2.1 システムにインストールする際のソフトウェア要件を示します。

Red Hat の詳細は、<http://www.redhat.com> を参照してください。

---

---

**注意：** Oracle Developer Suite10g リリース 2 (10.1.2) は、次のオペレーティング・システム固有ソフトウェアとの動作が保証されています。サポートされているオペレーティング・システム固有ソフトウェア (JDK バージョンなど) の最新リストについては、Oracle *MetaLink* (<http://metalink.oracle.com/>) を参照してください。

---

---

## Red Hat Update

- Update 5

## Red Hat のパッチ

- Red Hat 社が承認している Errata 49 カーネルまたはそれ以上の errata パッチ



たとえば、Red Hat のインストールに応じて、次のいずれかになります。

- kernel-2.4.9-e.49
- kernel-smp-2.4.9-e.49
- kernel-enterprise-2.4.9-e.49

## **ソフトウェア・パッケージ**

- glibc-2.2.4-32.17
- glibc-common-2.2.4-32.17
- gcc-2.96-128.7.2
- gcc-c++-2.96-128.7.2
- pdksh-5.2.14-22
- openmotif-2.1.30-12
- sysstat-4.0.1-15.2.1as
- compat-glibc-6.2-2.1.3.2
- compat-libstdc++-6.2-2.9.0.16
- libstdc++-2.96-128.7.2
- gnome-libs-1.2.13-16
- binutils-2.11.90.0.8-12.4

- make-3.79.1-8
- db1-1.85-7
- db3-3.3.11-5

システムがこれらの要件を満たしていることを確認する手順は次のとおりです。

1. root ユーザーとしてログインします。
2. インストールされている Linux のディストリビューションとバージョンを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# cat /etc/issue
```

```
Red Hat Linux Advanced Server release 2.1AS/¥m (Pensacola)
```

---

---

**注意：** 動作保証とサポートの対象になっているのは、Red Hat Enterprise Linux AS/ES 2.1、3.0、4.0 および SUSE Linux Enterprise Server 8、9 です。サポートされている Linux オペレーティング・システムの最新リストについては、[Oracle MetaLink \(http://metalink.oracle.com\)](http://metalink.oracle.com) を参照してください。

---

---

3. Update 5 がインストールされていることを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
# cat /etc/redhat-release
```

```
Red Hat Linux Advanced Server release 2.1AS/¥m (Pensacola Update 5)
```

Update 5 がインストールされている場合は、errata 49 と必要なソフトウェア・パッケージすべてがインストールされています。

4. インストールされている Linux カーネルのバージョンを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
# uname -r
```

```
kernel-smp-2.4.9-e.49
```

この例では、バージョンは errata 49 の 2.4.9 になります。カーネルのアップグレードが必要な場合は、オペレーティング・システムのドキュメントを参照してください。

Red Hat パッチの詳細は、次のサイトを参照してください。

<http://www.redhat.com/>

5. 他のパッケージがインストールされているかどうかを調べるには、次のようなコマンドを入力します。

```
# rpm -q package_name
```

インストールされていないパッケージがある場合は、それをダウンロードし、次のコマンドを使用してインストールします。

```
# rpm -i package_name
```

パッケージをインストールする際には、適切なアーキテクチャおよび最適化用の rpm ファイルが使用されていることを確認します。rpm ファイルのアーキテクチャを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
# rpm -q package_name --queryformat "%{arch}%n"
```

この例の glibc rpm ファイルは、Intel アーキテクチャ専用です。

```
# rpm -q glibc --queryformat "%{arch}%n"
```

```
i686
```

### 7.3.2 Red Hat Enterprise Linux AS/ES 3.0 システムのソフトウェア要件

次の項では、Oracle Developer Suite を Red Hat Enterprise Linux AS/ES 3.0 システムにインストールする際のソフトウェア要件を示します。

Red Hat の詳細は、<http://www.redhat.com> を参照してください。

---

---

**注意：** 動作保証とサポートの対象になっているのは、Red Hat Enterprise Linux AS/ES 2.1、3.0、4.0 および SUSE Linux Enterprise Server 8、9 です。サポートされている Linux オペレーティング・システムの最新リストについては、[Oracle MetaLink](http://metalink.oracle.com) (<http://metalink.oracle.com>) を参照してください。

---

---

### サポートされるカーネルの最低バージョン

- kernel-2.4.21-20.EL
- kernel-smp-2.4.21-20.EL
- kernel-hugemem-2.4.21-20.EL

### RedHat Update

- Update 3

### 必要なソフトウェア・パッケージ

- glibc-2.3.2-95.27
- glibc-common-2.3.2-95.27
- binutils-2.14.90.0.4-35
- compat-glibc-7.x-2.2.4.32.6
- compat-libstdc++-7.3-2.96.128

- compat-libstdc++-devel-7.3-2.96.128
- gcc-3.2.3-42
- gcc-c++-3.2.3-42
- libstdc++-3.2.3-42
- libstdc++-devel-3.2.3-42
- openmotif21-2.1.30-8
- pdksh-5.2.14-21
- setarch-1.3-1
- make-3.79.1-17
- gnome-libs-1.4.1.2.90-34.1
- sysstat-4.0.7-4.EL3.3
- compat-db-4.0.14-5
- openmotif21-2.1.30-8

システムがこれらの要件を満たしていることを確認する手順は次のとおりです。

1. root ユーザーとしてログインします。
2. インストールされている Linux のディストリビューションとバージョンを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# cat /etc/issue
```

```
Red Hat Enterprise Linux AS release 3 (Taroon)
```

---

---

**注意：** 動作保証とサポートの対象になっているのは、Red Hat Enterprise Linux AS/ES 2.1、3.0 および SUSE Linux Enterprise Server 8、9 です。サポートされている Linux オペレーティング・システムの最新リストについては、[Oracle MetaLink](http://metalink.oracle.com) (<http://metalink.oracle.com>) を参照してください。

---

---

3. Update 3 がインストールされていることを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
# cat /etc/redhat-release
```

```
Red Hat Enterprise Linux AS release 3 (Taroon Update 3)
```

4. 他のパッケージがインストールされているかどうかを調べるには、次のようなコマンドを入力します。

```
# rpm -q package_name
```

インストールされていないパッケージがある場合は、それをダウンロードし、次のコマンドを使用してインストールします。

```
# rpm -i package_name
```

パッケージをインストールする際には、適切なアーキテクチャおよび最適化用の rpm ファイルが使用されていることを確認します。rpm ファイルのアーキテクチャを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
# rpm -q package_name --queryformat "%{arch}¥n"
```

この例の glibc rpm ファイルは、Intel アーキテクチャ専用です。

```
# rpm -q glibc --queryformat "%{arch}¥n"  
i686
```

5. hugemem カーネルを使用している場合は、次のコマンドを使用してアーキテクチャを設定します。

```
prompt> setarch i386
```



### 7.3.3 Red Hat Enterprise Linux AS/ES 4.0 システムのソフトウェア要件

次の項では、Oracle Developer Suite を Red Hat Enterprise Linux AS/ES 4.0 にインストールする際のソフトウェア要件を示します。

Red Hat の詳細は、<http://www.redhat.com> を参照してください。

---

---

**注意：** 動作保証とサポートの対象になっているのは、Red Hat Enterprise Linux AS/ES 2.1、3.0、4.0 および SUSE Linux Enterprise Server 8、9 です。サポートされている Linux オペレーティング・システムの最新リストについては、[Oracle MetaLink](http://metalink.oracle.com) (<http://metalink.oracle.com>) を参照してください。

---

---

#### サポートされるカーネルの最低バージョン

- kernel-2.6.9-11.EL
- kernel-smp-2.6.9-11.EL
- kernel-hugemem-2.6.9-11.EL

#### Red Hat Update

- Update 1

## ソフトウェア・パッケージ

- glibc-2.3.4-2.9
- glibc-common-2.3.4-2.9
- binutils-2.15.92.0.2-13
- compat-libstdc++-296-2.96-132.7.2
- gcc-3.4.3-22.1
- gcc-c++-3.4.3-22.1
- libstdc++-3.4.3-22.1
- libstdc++-devel-3.4.3-22.1
- openmotif21-2.1.30-11.RHEL4.4
- pdksh-5.2.14-30
- setarch-1.6-1
- make-3.80-5
- gnome-libs-1.4.1.2.90-44.1
- sysstat-5.0.5-1
- compat-db-4.1.25-9
- control-center-2.8.0-12
- xscreensaver-4.18-5.rhel4.2

## 64 ビット動作要件

- Red Hat Enterprise Linux AS/ES 4.0 (64 ビット) の AMD64 および Intel EM64T での最新の動作要件については、Oracle MetaLink (<http://metalink.oracle.com/>) を参照してください。

システムがこれらの要件を満たしていることを確認する手順は次のとおりです。

1. root ユーザーとしてログインします。
2. インストールされている Linux のディストリビューションとバージョンを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# cat /etc/issue  
Red Hat Enterprise Linux AS release 4 (Nahant Update 1)
```

3. Update 1 がインストールされていることを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
# cat /etc/redhat-release  
Red Hat Enterprise Linux AS release 4 (Nahant Update 1)
```

4. 他のパッケージがインストールされているかどうかを調べるには、次のようなコマンドを入力します。

```
# rpm -q package_name
```

インストールされていないパッケージがある場合は、それをダウンロードし、次のコマンドを使用してインストールします。

```
# rpm -i package_name
```

パッケージをインストールするときは、正しいアーキテクチャおよび最適化 rpm ファイルを使用していることを確認してください。rpm ファイルのアーキテクチャを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
# rpm -q package_name --queryformat "%{arch}¥n"
```

この例の glibc rpm ファイルは、Intel アーキテクチャ専用です。

```
# rpm -q glibc --queryformat "%{arch}¥n"  
i686
```

5. hugemem カーネルを使用している場合は、次のコマンドを使用してアーキテクチャを設定します。

```
prompt> setarch i386
```

### 7.3.4 SUSE Linux Enterprise Server 8 システムのソフトウェア要件

次の項では、Oracle Developer Suite を SUSE Linux Enterprise Server 8 システムにインストールする際のソフトウェア要件を示します。

SUSE Linux Enterprise Server の詳細は、<http://www.suse.com/> を参照してください。

---

---

**注意：** Oracle Developer Suite 10g リリース 2 (10.1.2.0.2) は、次のオペレーティング・システム固有ソフトウェアとの動作が保証されています。サポートされているオペレーティング・システム固有ソフトウェア (JDK バージョンなど) の最新リストについては、Oracle *MetaLink* (<http://metalink.oracle.com/>) を参照してください。

---

---

## オペレーティング・システムの最低バージョン

- SP3

## サポートされるカーネルの最低バージョン

- k\_smp-2.4.21-138
- k\_deflt-2.4.21-138
- k\_psmpp-2.4.21-138

## ソフトウェア・パッケージ

- glibc-2.2.2-124
- gcc-3.2.2-38
- gcc-c++-3.2.2-38
- pdksh-5.2.14

- openmotif-2.1.30MLI4
- sysstat-4.0.3
- libstdc++-3.2.2
- make-3.79.1-407
- binutils-2.12.90.0.15-50
- compat-2003.1.10-0

システムがこれらの要件を満たしていることを確認する手順は次のとおりです。

1. root ユーザーとしてログインします。
2. インストールされている Linux のディストリビューションとバージョンを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# cat /etc/issue
```

```
Welcome to SUSE Linux Enterprise Server 8 (i586) - Kernel ¥r  
(¥1)
```

---

---

**注意：** 動作保証とサポートの対象になっているのは、Red Hat Enterprise Linux AS/ES 2.1、3.0 および SUSE Linux Enterprise Server 8、9 です。サポートされている Linux オペレーティング・システムの最新リストについては、[Oracle MetaLink \(http://metalink.oracle.com\)](http://metalink.oracle.com) を参照してください。

---

---

3. サービス・パックのバージョンを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# uname -r  
k_smp-2.4.21-138
```

カーネルのバージョンに 2.4.21 という文字列がある場合は、SP3 がインストールされています。SP3 は、Oracle Developer Suite 10g リリース 2 (10.1.2.0.2) との動作が保証されています。

4. 他のパッケージがインストールされているかどうかを調べるには、次のようなコマンドを入力します。

```
# rpm -q package_name
```

インストールされていないパッケージがある場合は、それをダウンロードし、次のコマンドを使用してインストールします。

```
# rpm -i package_name
```

パッケージをインストールする際には、適切なアーキテクチャおよび最適化用の rpm ファイルが使用されていることを確認します。rpm ファイルのアーキテクチャを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
# rpm -q package_name --queryformat "%{arch}¥n"
```

この例の glibc rpm ファイルは、Intel アーキテクチャ専用です。

```
# rpm -q glibc --queryformat "%{arch}¥n"  
i686
```

5. 次の Perl 実行可能ファイルのシンボリック・リンクを作成します (存在しない場合)。

```
# ln -sf /usr/bin/perl /usr/local/bin/perl
```

6. 次の fuser 実行可能ファイルのシンボリック・リンクを作成します (存在しない場合)。

```
# ln -sf /bin/fuser /sbin/fuser
```

7. SUSE Linux Enterprise Server システムに orarun パッケージをインストールした場合は、oracle ユーザーとして次の手順を実行し、環境を再設定します。

- a. 次のコマンドを入力します。

```
prompt> cd /etc/profile.d  
prompt> mv oracle.csh oracle.csh.bak  
prompt> mv oracle.sh oracle.sh.bak  
prompt> mv alljava.sh alljava.sh.bak  
prompt> mv alljava.csh alljava.csh.bak
```



- b. 任意のテキスト・エディタを使用して、`$HOME/.profile` ファイルの次の行をコメント化します。  

```
.. ./oracle
```
  - c. `oracle` ユーザー・アカウントからログアウトします。
  - d. `oracle` ユーザー・アカウントにログインして、変更内容を有効にします。
8. システムに Java パッケージがインストールされている場合は、`JAVA_HOME` などの Java の環境変数の設定を解除します。

---

---

**注意：** SUSE Linux Enterprise Server ディストリビューションに付属する Java パッケージは、インストールしないことをお勧めしません。

---

---

### 7.3.5 SUSE Linux Enterprise Server 9 システムのソフトウェア要件

次の項では、Oracle Developer Suite を SUSE Linux Enterprise Server 9 システムにインストールする際のソフトウェア要件を示します。

SUSE Linux Enterprise Server の詳細は、<http://www.suse.com/> を参照してください。

---

---

**注意：** Oracle Developer Suite 10g リリース 2 (10.1.2.0.2) は、次のオペレーティング・システム固有ソフトウェアとの動作が保証されています。サポートされているオペレーティング・システム固有ソフトウェア (JDK バージョンなど) の最新リストについては、OracleMetaLink (<http://metalink.oracle.com/>) を参照してください。

---

---

## サポートされるカーネルの最低バージョン

- kernel-bigsmp-2.6.5-7.97
- kernel-default-2.6.5-7.97
- kernel-smp-2.6.5-7.97

## ソフトウェア・パッケージ

- glibc-2.3.3-98.28
- gcc-3.3.3-43.24
- gcc-c++-3.3.3-43.24
- libstdc++-3.3.3-43.24
- libstdc++-devel-3.3.3-43.24
- openmotif21-libs-2.1.30MLI4-119.1

- `pdksh-5.2.14-780.1`
- `make-3.80-184.1`
- `gnome-libs-1.4.1.7-671.1`
- `gnome-libs-devel-1.4.1.7-671.1`
- `sysstat-5.0.1-35.1`
- `binutils-2.15.90.0.1.1-32.5`
- `db1-1.85-85.1`
- `compat-2004.7.1-1.2`

システムがこれらの要件を満たしていることを確認する手順は次のとおりです。

1. `root` ユーザーとしてログインします。
2. インストールされている `Linux` のディストリビューションとバージョンを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# cat /etc/issue
Welcome to SuSE Linux 9.0 (i686) - Kernel  $\$r$  ( $\$l$ ).
```

---

---

**注意：** 動作保証とサポートの対象になっているのは、Red Hat Enterprise Linux AS/ES 2.1、3.0 および SUSE Linux Enterprise Server 8、9 です。サポートされている Linux オペレーティング・システムの最新リストについては、[OracleMetaLink](http://metalink.oracle.com) (<http://metalink.oracle.com>) を参照してください。

---

---

3. カーネルのバージョンを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# uname -r
kernel-bigsmpp-2.6.5-7.97
```

4. 他のパッケージがインストールされているかどうかを調べるには、次のようなコマンドを入力します。

```
# rpm -q package_name
```

インストールされていないパッケージがある場合は、それをダウンロードし、次のコマンドを使用してインストールします。

```
# rpm -i package_name
```

パッケージをインストールする際には、適切なアーキテクチャおよび最適化用の rpm ファイルが使用されていることを確認します。rpm ファイルのアーキテクチャを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
# rpm -q package_name --queryformat "%{arch}¥n"
```

この例の glibc rpm ファイルは、Intel アーキテクチャ専用です。

```
# rpm -q glibc --queryformat "%{arch}¥n"
i686
```

5. 次の Perl 実行可能ファイルのシンボリック・リンクを作成します (存在しない場合)。

```
# ln -sf /usr/bin/perl /usr/local/bin/perl
```

6. 次の fuser 実行可能ファイルのシンボリック・リンクを作成します (存在しない場合)。

```
# ln -sf /bin/fuser /sbin/fuser
```

7. SUSE Linux Enterprise Server システムに `oracrun` パッケージをインストールした場合は、`oracle` ユーザーとして次の手順を実行し、環境を再設定します。

- a. 次のコマンドを入力します。

```
prompt> cd /etc/profile.d
prompt> mv oracle.csh oracle.csh.bak
prompt> mv oracle.sh oracle.sh.bak
prompt> mv alljava.sh alljava.sh.bak
prompt> mv alljava.csh alljava.csh.bak
```

- b. 任意のテキスト・エディタを使用して、`$HOME/.profile` ファイルの次の行をコメント化します。

```
.. /.oracle
```

- c. `oracle` ユーザー・アカウントからログアウトします。
  - d. `oracle` ユーザー・アカウントにログインして、変更内容を有効にします。
8. システムに Java パッケージがインストールされている場合は、`JAVA_HOME` などの Java の環境変数の設定を解除します。

---

---

**注意：** SUSE Linux Enterprise Server ディストリビューションに付属する Java パッケージは、インストールしないことをお勧めします。

---

---

## 8 動作保証されたソフトウェア

Oracle Developer Suite の動作保証されたソフトウェアの詳細なリストは、次の *OracleMetaLink* のサイトで参照できます。

<http://metalink.oracle.com/>

## 9 オンライン・マニュアルの要件

Oracle Developer Suite ドキュメント・ライブラリには、HTML および Adobe PDF 形式のオンライン・マニュアルが含まれています。ドキュメント・ライブラリのコンテンツのインストールおよび表示手順については、Oracle Developer Suite のインストール・ガイドの付録 C を参照してください。

表 6 に、Oracle Developer Suite ドキュメント・ライブラリのツールおよびディスク領域要件を示します。



**表 6 オンライン・マニュアルの要件**

項目	要件
オンライン・リーダー	次のいずれかのソフトウェア HTML <ul style="list-style-type: none"><li>■ Netscape 7.2</li><li>■ Microsoft Internet Explorer 6.0 SP 2</li><li>■ Mozilla 1.7</li><li>■ Firefox 1.0.4</li><li>■ Safari 1.2</li></ul> PDF <ul style="list-style-type: none"><li>■ Acrobat Reader 3.0 以上</li><li>■ Acrobat Reader+Search 3.0 以上</li><li>■ Acrobat Exchange 3.0 以上</li><li>■ PDFViewer Web ブラウザ・プラグイン 1.0 以上</li></ul>
ディスク領域	130 MB

# 10 インストーラの起動

インストーラを起動するには、次の手順に従います。

## 10.1 Windows の場合

---

---

**注意：** インストール時に Windows システム・ファイルのエラーが発生した場合は、「OK」をクリックしてエラー・ダイアログを閉じます。その後、この項で後述されている Windows システム・ファイルのインストール手順に従います。

---

---

1. Oracle データベースなどの Oracle サービスをすべて停止します。
2. **CD-ROM:** 「Disk 1」というラベルの付いた Oracle Developer Suite の CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。  
**DVD:** 「Oracle Developer Suite and Documentation」というラベルの付いた Oracle Developer Suite DVD を DVD ドライブに挿入します。
3. **CD-ROM:** 自動実行機能を使用しない場合は、CD-ROM のルート・ディレクトリにある `setup.exe` プログラムを検索します。このプログラムを実行して、インストーラを起動します。

**DVD:** 自動実行機能を使用しない場合は、DVD のルート・ディレクトリの下に ¥developer\_suite ディレクトリにある setup.exe プログラムを検索します。このプログラムを実行して、インストーラを起動します。

4. 自動実行機能を使用する場合は、インストーラが自動的に起動します。**Oracle Developer Suite のインストーラ** をクリックして、インストーラを開始します。
5. **Windows の障害支援技術:** 自動実行機能を無効にするには、CD-ROM または DVD を挿入した後に [Shift] キーを押します。また、自動実行ウィンドウが表示された場合は、[ALT] キーを押しながら [F4] キーを押してウィンドウを閉じます。次のいずれかの手順を実行します。
  - a. **CD-ROM:** Oracle Developer Suite をインストールするには、CD-ROM のルート・ディレクトリにある setup.exe プログラムを検索します。このプログラムを実行して、インストーラを起動します。

**DVD:** Oracle Developer Suite をインストールするには、DVD のルート・ディレクトリの下に ¥developer\_suite ディレクトリにある setup.exe プログラムを検索します。このプログラムを実行して、インストーラを起動します。
  - b. CD-ROM または DVD のコンテンツを参照するには、Windows Explorer を使用します。

- c. Oracle Developer Suite について調べるには、ブラウザから CD-ROM の `¥doc¥welcome¥index.htm` ファイル、または DVD の `¥developer_suite¥doc¥welcome¥index.htm` ファイルを開きます。

### 10.1.1 Windows システム・ファイルのインストール

Oracle Developer Suite では、Windows システム・ディレクトリにいくつかのファイルを必要とします。Oracle Developer Suite のインストール時には、コンピュータの既存ファイルが Oracle Developer Suite の要件を満たしているかどうかを確認されます。ファイルが存在しないか、古くなっている場合は、必要なファイルがインストールされます。

古くなっているファイルがインストール時に別のプロセスによって使用されている場合、インストーラが停止してエラー・ダイアログが表示されます。これは、更新されたファイルの内容が反映されるのに、Windows では再起動が必要なためです。インストーラは、システムの再起動に伴って自動的に停止したり、再起動することはありません。

Oracle Developer Suite には、必要な Windows システム・ファイルをインストールするための付加インストールが用意されています。このインストールの完了時には、必要に応じてコンピュータが自動的に再起動されます。

Oracle Developer Suite のインストール時に Windows システム・ファイルのエラーが発生した場合は、「**OK**」をクリックしてエラー・ダイアログを閉じ、次の手順に従って Windows システム・ファイルのインストールを開始します。Windows システム・ファイルをインストールしないと、Oracle Developer Suite のインストールは実行できません。

**Windows システム・ファイルをインストールする手順は次のとおりです。**

1. 「**終了**」をクリックしてインストーラを終了します。
2. CD-ROM のルート・ディレクトリに移動するか、DVD のルート・ディレクトリの下にある `¥developer_suite` ディレクトリに移動します。
3. `wsf.exe` を実行します。

Windows システム・ファイルのインストーラによって、既存の Oracle ホームが検索されます。見つからなかった場合は、**ファイルの場所**ダイアログが表示されます。このダイアログから Oracle ホームを選択します。

必要に応じて、Windows が自動的に再起動されます。それ以外の場合は、インストールの終了ダイアログが表示されずに、Windows システム・ファイルのインストールが終了します。

4. Windows が再起動するか、Windows システム・ファイルのインストールが終了した後、Oracle Developer Suite のインストールを再開します。

## 10.2 Linux および Solaris の場合

---

---

**注意:** root アカウントへのアクセスが必要です。

---

---

自動マウント機能がサポートされていないオペレーティング・システムでは、インストール CD-ROM または DVD を手動でマウントする必要があります。CD-ROM または DVD のマウントとアンマウントには、root 権限が必要です。ドライブから CD-ROM または DVD を取り出す前に、必ずアンマウントしてください。

---

---

**注意:** Oracle Developer Suite のインストール CD-ROM は、RockRidge 形式です。また、Oracle Developer Suite and Documentation DVD は、DVD-ROM 形式です。

---

---

インストール CD-ROM または DVD をマウントする手順は次のとおりです。

1. Oracle データベースなどの Oracle プロセスをすべて停止します。
2. 該当するオペレーティング・システムの項を読んで、詳細なマウント手順を確認します。
  - [Solaris](#) での CD-ROM または DVD のマウント
  - [Linux](#) での CD-ROM または DVD のマウント

## 10.2.1 Solaris での CD-ROM または DVD のマウント

コンピュータに自動マウント機能が設定されている場合、CD-ROM または DVD をディスク・ドライブに挿入すると、自動マウントの設定で指定されているディレクトリに自動的にマウントされます。

コンピュータに自動マウント機能が設定されていない場合は、CD-ROM または DVD を手動でマウントする必要があります。

CD-ROM または DVD を手動でマウントする手順は次のとおりです。

1. 「Disk 1」というラベルの付いた Oracle Developer Suite の CD-ROM、または「Oracle Developer Suite and Documentation」というラベルの付いた DVD を、ドライブに挿入します。
2. root ユーザーとしてログインします。
3. CD-ROM または DVD 用のマウント・ポイント・ディレクトリがあることを確認します。たとえば、/cdrom というディレクトリは、次のようにして作成できます。

```
# mkdir /cdrom
```

4. マウント・ポイント・ディレクトリに、CD-ROM ドライブまたは DVD ドライブをマウントします。たとえば、マウント・ポイント・ディレクトリが /cdrom の場合は、次のコマンドを入力します。

```
#mount -r -F hsfs device_name /cdrom
```

5. root ユーザーとしてログアウトします。

## 6. インストーラの実行に進みます。

### 10.2.2 Linux での CD-ROM または DVD のマウント

コンピュータに CD-ROM または DVD の自動マウント機能が設定されている場合、CD-ROM または DVD をディスク・ドライブに挿入すると、自動マウントの設定で指定されているディレクトリに自動的にマウントされます。

コンピュータに自動マウント機能が設定されていない場合は、CD-ROM または DVD を手動でマウントする必要があります。

CD-ROM または DVD を手動でマウントする手順は次のとおりです。

1. 「Disk 1」というラベルの付いた Oracle Developer Suite の CD-ROM、または「Oracle Developer Suite and Documentation」というラベルの付いた DVD を、ドライブに挿入します。
2. root ユーザーとしてログインします。
3. CD-ROM または DVD 用のマウント・ポイント・ディレクトリがあることを確認します。たとえば、`/mnt/cdrom` というディレクトリは、次のようにして作成できます。

```
# mkdir /mnt/cdrom
```



4. /etc/fstab に、/dev/cdrom に関する次の行が存在することを確認します。

```
/dev/cdrom /mnt/cdrom iso9660  
noauto,owner,kudzu,ro 0 0
```

---

---

**注意：** ファイル /etc/fstab には、前述の行と同様の内容が記述されている必要があります。この行がそれ以外の形式で記述されている場合は、前述の内容に書き換えてください。

---

---

5. 次のコマンドを実行して、CD-ROM または DVD ドライブをマウント・ポイント・ディレクトリにマウントします。

```
# /bin/mount /mnt/cdrom
```

このコマンドにより、CD-ROM または DVD が、マウント・ポイント・ディレクトリ /mnt/cdrom にマウントされます。

6. root ユーザーとしてログアウトします。
7. **インストーラの実行**に進みます。

### 10.2.3 インストーラの実行

インストール CD-ROM または DVD をマウントしたら、インストーラを起動できます。

**CD-ROM または DVD からインストーラを起動する手順は次のとおりです。**

---

---

**注意:** インストーラを起動する際には、root ユーザーとしてログインしていないことを確認してください。ログインしていると、エラー・メッセージが表示されてインストーラは停止します。

---

---

1. Oracle 製品のインストール用のユーザーとしてログインします。
2. マウント・ポイント・ディレクトリとそのサブディレクトリ以外のディレクトリに移動します。たとえば、マウント・ポイント・ディレクトリが /mnt/cdrom の場合は、/mnt/cdrom とそのサブディレクトリ以外のディレクトリに移動します。
3. **CD-ROM:** 次のコマンドを入力して、インストーラを起動します。

```
prompt> mount_point_directory/runInstaller
```

**DVD:** 次のコマンドを入力して、インストーラを起動します。

```
prompt> mount_point_directory/developer_
suite/runInstaller
```

これでインストーラが起動します。

### 10.3 サイレント（非対話型）モードでのインストーラの実行

Oracle Developer Suite のインストレーション・ガイドの付録 D を参照してください。

## 11 コンポーネントの起動

Oracle Developer Suite コンポーネントを起動する前に、前述の項にある一般のおよびコンポーネント別のインストール後の手順を完了していることを確認してください。また、コンポーネントの前のバージョンからアップグレードする場合は、必要なアップグレード手順を実行してください。各コンポーネントのアップグレード手順は、Oracle Developer Suite のインストール・ガイドの付録 A で説明されています。

コンポーネントのインストール後の手順とアップグレード手順が完了したら、次のようにコンポーネントを起動できます。

### 11.1 Oracle10g JDeveloper および Oracle Business Intelligence Beans

Windows: JDeveloper を起動するには、  
`DevSuiteHome\jdev\bin\jdevw.exe` プログラムを実行します。診断情報を示したコンソール・ウィンドウを表示するには、  
`DevSuiteHome\jdev\bin\jdev.exe` プログラムを実行します。

Linux および Solaris: JDeveloper を起動するには、  
`DevSuiteHome/jdev/bin/jdev` プログラムを実行します。

Oracle Business Intelligence Beans は、JDeveloper の一部として利用できません。

## 11.2 Oracle Reports Developer

Windows: Reports Builder を起動するには、「スタート」メニューで、「スタート」→「プログラム」→「Oracle Developer Suite - *DevSuiteHome*」→「Oracle Reports Developer」→「Reports Builder」を選択します。

Linux および Solaris: Oracle Reports Developer を起動するには、`DevSuiteHome/bin` ディレクトリに移動して、`rwbuilder.sh` を実行します。

## 11.3 Oracle Forms Developer

Windows: Forms Builder を起動するには、「スタート」→「プログラム」→「Oracle Developer Suite」→「Oracle Forms Developer」→「Forms Builder」を選択します。

Linux および Solaris: Oracle Forms Builder を起動するには、`DevSuiteHome/bin` ディレクトリに移動して、`frmbld.sh` を実行します。

## 12 追加情報

この項では、次の内容について説明します。

- [製品のライセンス](#)
- [オラクル社カスタマ・サポート・センターへのお問合せ](#)
- [製品マニュアルの入手方法](#)

### 製品のライセンス

このメディア・パックに含まれている製品は、トライアル・ライセンス契約に基づき、30日間、インストールおよび評価できます。ただし、30日間の評価期間後もいずれかの製品の使用を継続する場合、プログラム・ライセンスをご購入いただく必要があります。

### オラクル社カスタマ・サポート・センターへのお問合せ

Oracle 製品サポートをご購入いただいた場合、オラクル社カスタマ・サポート・センターに、年中無休で24時間いつでも、お問い合わせいただけます。Oracle 製品サポートの購入方法、またはオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡方法の詳細は、オラクル社カスタマ・サポート・センターの Web サイトを参照してください。

<http://www.oracle.co.jp/support/>

## 製品マニュアルの入手方法

Oracle 製品のマニュアルは、HTML および Adobe 社 PDF 形式で提供されており、入手方法がいくつかあります。

- メディア・パック内のディスク：
  - プラットフォーム固有のマニュアルは、製品ディスクに含まれています。マニュアルにアクセスするには、**CD-ROM** のトップレベル・ディレクトリにある `welcome.htm` ファイルを参照してください。
- Oracle Technology Network Japan の Web サイト：  
<http://otn.oracle.co.jp/document/>

PDF ドキュメントを表示するには、必要に応じて、Adobe 社の Web サイトから、無料の Adobe Acrobat Reader をダウンロードしてください。

<http://www.adobe.com/>

## 13 その他の情報

### クイック・リファレンス

リソース	連絡先 / Web サイト
開発者向けのテクニカル・リソースにアクセスできます。	<a href="http://otn.oracle.co.jp/">http://otn.oracle.co.jp/</a>
インストール・マニュアルにアクセスできます。	<a href="http://otn.oracle.co.jp/tech/install/">http://otn.oracle.co.jp/tech/inst all/</a>
サポート・サービスに関する情報にアクセスできます。	<a href="http://www.oracle.co.jp/support/">http://www.oracle.co.jp/support/</a>
日本オラクル技術営業の連絡先です。	0120-155-096 (受付時間等の詳細は後述します。)

**注意：** ドキュメント内に記載されている URL や参照ドキュメントには、Oracle Corporation が提供する英語の情報も含まれています。日本語版の情報については、前述の URL を参照してください。

## オラクル製品のインストールに関する情報

オラクル製品のインストールに関する情報およびマニュアルを提供しています。

次の URL を参照してください。ただし、個々の環境に依存する問題または検証が必要となるようなケースでは、サポート・サービス（有償）の契約が必要になりますのでご了承ください。

### □ OTN インストール・センター

<http://otn.oracle.co.jp/>

「OTN」 → 「テクノロジーセンター」 → 「インストール」

### □ Oracle Technology Network 掲示板

<http://otn.oracle.co.jp/>

「OTN」 → 「掲示板」 → 「ビギナー」の「初心者部屋」

### □ インストレーション・ガイド・ダウンロード

<http://otn.oracle.co.jp/>

「OTN」 → 「ドキュメント」 → 「製品名」 → 「OS」

### □ 製品 FAQ 検索

<http://support.oracle.co.jp/>

「Oracle Internet Support Center」 → 「製品 FAQ 検索」

キーワード: 「インストール」、「install」 など



これらのキーワードを参照しても解決されないインストール時の不明点または問題点については支援サービスを提供しています。次のオラクル製品が対象になりますので次の URL から質問してください。

[http://www.oracle.co.jp/install\\_service/](http://www.oracle.co.jp/install_service/)

- 対象製品：
  - Oracle Database Standard Edition
  - Oracle Database Personal Edition
  - Oracle9i Application Server Java Edition
  - Oracle Application Server 10g Java Edition
- 対象 OS:
  - Linux x86
  - Microsoft Windows

## Oracle Technology Network Japan

OTN Japan は開発者に必要な技術リソースを提供する登録制、日本オラクル公式技術サイトです。OTN Japan に登録（無償）していただくと、技術資料、オンライン・マニュアル、ソフトウェア・ダウンロード、サンプル・コード、掲示板、ポイント・プログラム、オラクル関連書籍のディスカウント、OTN 有償プログラムなど様々なサービスを受けることができます。

□ OTN Japan 登録方法

<http://otn.oracle.co.jp/>

この URL から「OTN の歩き方」を参照してください。

□ 技術資料

<http://otn.oracle.co.jp/products/>

オラクル製品の最新情報を提供します。目的とする技術資料を容易に参照できるわかりやすいカテゴリになっています。

□ ソフトウェア・ダウンロード

<http://otn.oracle.co.jp/software/>

オラクル製品のトライアル版、早期アクセス版、ユーティリティ、ドライバなどを無償でダウンロードできます。最新バージョンをタイムリに掲載していますので、OTN Japan で提供している技術資料、ドキュメント等とあわせて使用することにより、いち早く最新のオラクル・テクノロジーを体験できます。

□ ドキュメント

<http://otn.oracle.co.jp/document/>

オラクル製品のインストラクション・ガイド、リリース・ノート等のドキュメント（マニュアル）を掲載しています。製品に同梱されているドキュメントから有償マニュアルにいたるまで、最新のドキュメントをタイムリに掲載しています。

## □ サンプル・コード

[http://otn.oracle.co.jp/sample\\_code/](http://otn.oracle.co.jp/sample_code/)

開発者に参考としていただけるよう、プログラムのサンプルを掲載しています。オラクル最新テクノロジーに準拠したサンプル・プログラムの数々をお役立てください。

## □ 掲示板

<http://otn.oracle.co.jp/forum/>

オラクル製品を使用して開発される皆様のためのコミュニティです。**Web**によるディスカッション・フォーラム（掲示板）を通して、オラクル開発者間での情報交換ができます。それぞれの開発ノウハウを共有することで、より効率的な開発ができます。**OTN** 掲示板専用のビューア「**OTN Viewer**」も使用していただけます。

## □ ポイント・プログラム

<http://otn.oracle.co.jp/point/index.html>

**OTN Japan** 活性化に貢献された会員の皆様にポイント進呈する **OTN** ポイント・プログラムを設けています。獲得ポイントは **OTN** グッズと交換したり、掲示板投稿時の懸賞ポイントとして使用できます。

## □ OTN 有償プログラム

<http://otn.oracle.co.jp/upgrade/index.html>

OTN 有償プログラムは、OTN 会員の皆様向けの有償アップグレード・サービスです。OTN Japan サイトで提供している無償サービスに加え、最新のオラクル製品を開発ライセンスで使用していただける OTN Software Kit (日本語版 CD-ROM) の送付やオラクル技術書籍ご購入時のディスカウントなど、有償ならではの様々なサービスを提供します。

- お薦めサービス「SQL 構文検索サービス」

<http://otn.oracle.co.jp/document/sqlconst/>

SQL 文や SQL 関数をオンラインで参照できる SQL 構文検索サービスです。

- お薦めサービス「エラー・メッセージ検索 (Oracle9i)」

<http://otn.oracle.co.jp/document/msg/>

オラクル製品の使用中に表示されるエラー・メッセージについて検索できます。

- お薦めサービス「TechBlast メールサービス」

<http://otn.oracle.co.jp/techblast/>

OTN Japan では、配信を希望された会員の皆様へほぼ月に 1～2 回メールをお送りしています。新着情報のほか、会員の皆様には是非ともお知らせしたいセミナーやイベント情報、製品や最新技術に関する連載を掲載しています。

## OracleDirect

OracleDirect では、電話とインターネットを通じて、製品ご購入前のオラクル製品に関するご質問をはじめとする、お客様からの様々なお問合せに対応いたします。

OracleDirect に関する詳細は、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.oracle.co.jp/contact/>

### □ お問合せ先

TEL: 0120-155-096

FAX: 03-4326-5020

Web 問合せ: <http://www.oracle.co.jp/contact/>

受付時間: 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 18:00 (土、日、祝祭日、年末年始を除く)

また、OracleDirect にてお受けできるご質問内容は次のとおりとなりますので、ご連絡の前に確認をお願いいたします。

### □ ご質問にお答えできる内容 (概要)

- 製品に関して日本国内で公表されている一般的な内容
  - 出荷日、出荷予定日
  - 価格およびライセンス
  - システム要件
  - ハードウェア (メモリ容量、ディスク容量)

- ソフトウェア（対応 OS、対応コンパイラなど）
  - 製品の基本機能（カタログに記載されているレベルまで）
  - 製品バージョン（RDBMS、Net 等の接続対応バージョンの案内）
  - サポート・サービス契約の概要  
サポート・サービス契約の照会、確認、お見積もりはディ  
ストリビューションセンターまでお願いいたします。
- カタログ、資料請求、セミナー内容に関するお問合せ
  - お客様の個別環境への提案
  - 製品概要の説明や応用例、システム構成について営業担当者へ  
の直接相談

次のお問い合わせにはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

- マニュアルに関すること（オンライン・マニュアルも含む）
- 国内未発表の内容（日本オラクルが正式に公表した内容以外のもの）
- 他社から販売されているオラクル関連製品に関するお問合せ
- 技術的な内容（テクニカルサポート・レベル）

## サポート・サービス

オラクルではお客様のシステムの健康状態を維持するために、Oracle Support Services をご用意しています。オラクル製品の専門技術者が、様々な形でお客様の問題解決のお手伝いをいたします。

- 障害回避策提示
- 修正プログラムの提供
- インターネット・サポート
- 技術情報の提供など

Oracle Support Services のサポート・サービス契約をお持ちのお客様は、次の技術サポートを受けられます。サポート・サービスには電話やインターネットによる技術サポートのほか、インターネット上での各種技術情報へのアクセス、ご契約済み製品のバージョンアップ用メディアの提供、Oracle Support NewsLetter（毎月）の提供などが含まれます。

### □ 技術サポート

ご契約のお客様は、インターネットおよび電話による技術サポートを受けられます。お問合せは、毎日 24 時間受け付けております。お問合せの方法についての詳細は、初回ご契約時にお送りする「Oracle Support User's Guide」をご覧ください。

インターネットでは、次の Web サイトで Oracle Support Services について紹介しています。

<http://www.oracle.co.jp/support/>

## □ OiSC (Oracle internet Support Center)

サポート・センターでは、24 時間ご利用いただけるポータル Web サイトとして OiSC をご用意し、お客様に役立つサポート・サービス関連情報を提供しています。

- サポート関連の新着情報
- インターネット上での Oracle Support Newsletter の参照
- パッチのダウンロード
- お問い合わせの受付、更新、状況確認
- 後述の MetaLink へのリンク
- サービス内容のご紹介

## □ KROWN

ディレクトリ・サービスやキーワード検索サービスを備えた、25,000 タイトル以上からなる技術情報です。前記 OiSC からご利用ください。

## □ MetaLink

Oracle Support Services をご契約のお客様は、Web によるサポート・サービスである MetaLink を 24 時間ご利用いただけます。MetaLink は、全世界から集められた英語での技術情報が収録されている知識ベースです。インターネット上でご覧いただけます。



## □ Oracle Support NewsLetter

毎月更新されるサポート技術情報や、新しいバージョンの製品情報などを Email または Web でお届けします。Oracle Support NewsLetter には以下の情報が掲載されています。

- 毎月の新着情報
- 技術情報（Q&A、Oracle User バックナンバーなど）
- お客様へのご案内
- Oracle Support NewsLetter は OiSC でもご覧いただけます。

## □ お問い合わせ先

日本オラクル株式会社 ディストリビューションセンター

TEL: 0570-093812

受付時間: 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00（土、日、祝祭日、年末年始を除く）

ディストリビューションセンターでは、Oracle Support Services のサポート・サービス契約について、次のような情報をご案内いたします。

- 新規サポート・サービス契約に関するご相談
- サポート・サービス契約に基づくサービス内容のご紹介
- サポート・サービス契約書の記入方法
- サポート・サービス料金について

または、次の Web サイトにアクセスしてください。

<http://www.oracle.co.jp/support/>

## 研修サービス

日本オラクルの研修サービスに関する詳しいお問合せは次までお願いいたします。研修サービスに関する詳細は、次の Web サイトでもご紹介しています。

<http://www.oracle.co.jp/education/>

### □ お問合せ先

日本オラクル株式会社 オラクルユニバーシティ

TEL: 0120-155-092

FAX: 03-5766-4400

受付時間：9:00～12:00、13:00～17:00（土、日、祝祭日、年末年始を除く）

## 14 ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。オラクル社のドキュメントには、ユーザーが障害支援技術を使用して情報を利用できる機能が組み込まれています。HTML 形式のドキュメントで用意されており、障害のあるお客様が簡単にアクセスできるようにマークアップされています。標準規格は改善されつつあります。オラクル社はドキュメントをすべてのお客様がご利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に連携して技術的な問題に対応しています。オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/accessibility/> を参照してください。

### ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティについて

スクリーン・リーダーは、ドキュメント内のサンプル・コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかしスクリーン・リーダーは括弧だけの行を読まない場合があります。

### 外部 Web サイトのドキュメントのアクセシビリティについて

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関しての評価や言及は行っておりません。

